

白山の高山帯におけるカラスの出現

上馬 康 生 石川県白山自然保護センター

APPEARANCE DATA OF CROWS IN THE ALPINE PART OF MT. HAKUSAN

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

日本アルプス等の高山帯には、1970年代初めまでにすでにカラス（ほとんどがハシブトガラス）が生息していたことが分かっている（羽田，1974）。しかし白山の高山帯には、1970年以前の調査ではカラスは確認されておらず、山麓の集落にハシボソガラスだけが生息しており、登山口の市ノ瀬や中宮温泉、岩間温泉などではカラスは確認されていない（熊野・木村，1970）。筆者の調査によると、1970年代～1980年代にかけても白山の高山帯には確認できず、山麓の市ノ瀬や中宮温泉などでハシボソガラスのみみられただけである（上馬，1982・1985；石川県環境部，1989など）。

中村・中村（1995）によると、ハシブトガラスは低地のみならず亜高山帯の樹林でも繁殖し、最近では観光客のゴミを求めて高山帯にまで姿を見せるようになったといわれる。白山でも、以前は山麓にしかみられなかったカラスが、近年高山帯でもみられるようになった。カラスは人が出すゴミのほか鳥の卵や雛も食べるので、今まで生息していなかった高山帯への出現は、その生態系に与える影響が懸念される。そこで2001～2003年にかけて、主として白山の亜高山帯以上でのカラスの出現状況を調査するとともに、過去の記録をまとめた。

本稿を書くにあたり、アンケート調査や聞き取り調査でカラスの情報をいただいた多くの方々に感謝の意を表します。

調査方法

現地調査は北縦走路、中宮道、岩間道、楽々新道、加賀禅定道、釈迦新道、観光新道、砂防新道、平瀬道、南竜道、エコーライン、トンビ岩コース、展望歩道、山頂池めぐりコース、別山市ノ瀬道、石徹白道、鳩ヶ湯新道など、2001年～2003年の3年間で白山のほぼすべての登山道において行った。カラスの発見に努め、発見できれば種名の確認と時刻、個体数、行動などを調査し、地形図上で位置を確認できるように記録した。また同じく3年間、登山者に対して行ったアンケート調査や、聞き取り調査によりカラス情報を収集したほか、1990年～2000年までの鳥類調査で、亜高山帯以上まで調査したもののなかでカラスの記録を集めた。

調査結果

2001年～2003年の現地調査とアンケート調査、聞き取り調査により合計44件のカラスの情報が得られた（表1）。確認されたのは、すべてハシブトガラスであった。この中で*印を除いた38件が亜高山帯以上での記録である。発見日を見ると、調査したこの3年間は春から秋までの間、季節を問わず高山帯まで上がっていることが分かる。3年間の中では、2001年が30件と最も多く、2002年と2003年はあまり多くない。また発見位置と、一部について分かっている飛行経路を示したのが図1である。なおアンケート情報の発見位置は詳しい場所が分かっている記録は少なく、場所は推定である。

次に1990年～2000年までの筆者の記録を示したの

表1 白山の登山道で記録されたカラス (2001年~2003年, *は1,700m以下)

種名	年月日	時刻	場所	個体数	行動等	記録者
No.1 カラス	2001.7.7.	17:54	*別当出合	1	電柱に止まっていた	野上達也
No.2 カラス	2001.7.14	14:40, 17:30	*大白川	1	駐車場(食事のグループあり)そばの木、ハシボソガラス?	上馬康生
No.3 カラス	2001.7.24	5:40	中飯場	3	別当谷工事現場付近から出てきて下方へ	野上達也
No.4 ハシブトガラス	2001.7.24	10:30	別当岨	5	上空	上馬康生
No.5 ハシブトガラス	2001.7.24	12:20	甚之助避難小屋	1	鳴き声	上馬康生
No.6 ハシブトガラス	2001.7.24	15:10	南竜ヶ馬場	1	キャンプ場	上馬康生
No.7 ハシブトガラス	2001.7.25	15:47~55	南竜ヶ馬場	1	川原に降りる。オオシラビノに止まる。西方へ飛ぶ	上馬康生
No.8 ハシブトガラス	2001.7.25	17:35	南竜ヶ馬場	1	南竜山荘の上空を飛ぶ	上馬康生
No.9 ハシブトガラス	2001.7.26	8:51~9:02	甚之助避難小屋	2	甚之助谷右岸へ飛び、再び小屋付近へ戻る。1羽南竜方向へ	上馬康生
No.10 ハシブトガラス	2001.7.26	9:30~9:41	甚之助避難小屋	5	小屋付近より飛び立ち、南竜方向へ飛ぶ	上馬康生
No.11 カラス	2001.7.30		室堂	7		アンケート
No.12 カラス	2001.8.1	13:00	水屋尻雪渓	2		野上達也
No.13 カラス	2001.8.1	13:27	室堂	1	室堂付近から西方へ飛ぶ	野上達也
No.14 カラス	2001.8.6		水屋尻雪渓	4	午後、雪渓の上でついでみ行動	宮下幸夫
No.15 カラス	2001.8.13		弥陀ヶ原	1		アンケート
No.16 カラス	2001.8.13		南竜ヶ馬場	多数	キャンプ場	アンケート
No.17 カラス	2001.8.25		南竜ヶ馬場	6		アンケート
No.18 ハシブトガラス	2001.8.30	13:00	*三方岩岳	2	岐阜県側で鳴き声	上馬康生
No.19 カラス	2001.9.15		南竜ヶ馬場	不明	キャンプ場	アンケート
No.20 カラス	2001.9.19	13:30	室堂	1	第一展望台から弥陀ヶ原へ下っていく	堀 日出夫
No.21 カラス	2001.9.23	10:00	展望歩道	1		堀 日出夫
No.22 ハシブトガラス	2001.10.3	11:54	エコーライン下部	3	オオシラビノに止まっていたが、南竜ヶ馬場方向へ飛ぶ	上馬康生
No.23 ハシブトガラス	2001.10.4	7:00	南竜ヶ馬場	1	南竜山荘近くのオオシラビノに止まる	上馬康生
No.24 カラス	2001.10.6		*別当出合	5羽以上		アンケート
No.25 ハシブトガラス	2001.10.8		馬ボコ岩	2		アンケート
No.26 ハシブトガラス	2001.10.9		別山	2	岩小屋	アンケート
No.27 カラス	2001.10.24	7:40	中飯場	1	鳴いていた	小川弘司
No.28 カラス	2001.10.24	10:05	室堂	1		小川弘司
No.29 カラス	2001.10.24	12:00~12:30	室堂	3	建物周辺に滞在	小川弘司
No.30 ハシブトガラス	2001.10.26	11:55~12:03	三ノ峰	1	山頂へ上がってくる。しばらくして鳩ヶ湯道下方へ下っていく	上馬康生
No.31 カラス	2002.4.6		三ノ峰 剣ヶ岩	2	上空	アンケート
No.32 カラス	2002.7.25		南竜ヶ馬場	2	鳴いていた	アンケート
No.33 カラス	2002.8.4		弥陀ヶ原	3~4羽		アンケート
No.34 カラス	2002.9.3		*別当出合	たくさん		アンケート
No.35 カラス	2002.9.10	14:05	五葉坂	2	西方より東方へ飛ぶ	野上達也
No.36 カラス	2002.10.5		室堂	不明		アンケート
No.37 カラス	2003.5.2	9:10	甚之助避難小屋	1	下方より上がってきて小屋付近から別当谷へ	上馬康生
No.38 ハシブトガラス	2003.6.27	11:15	別山	1	岐阜県側で鳴き声	上馬康生
No.39 カラス	2003.7.8		甚之助避難小屋	不明	小屋より下方	アンケート
No.40 カラス	2003.7.		弥陀ヶ原	不明		村山正臣
No.41 カラス	2003.8.7		十二曲がり	1		アンケート
No.42 カラス	2003.10.9	11:45	南竜道	2	甚之助谷へ下っていく	野上達也
No.43 ハシブトガラス	2003.10.18	8:15	*砂御前山	2	大嵐谷方向より鳴き声	上馬康生
No.44 ハシブトガラス	2003.10.20	15:30	南竜ヶ馬場	2	トノケ方面から下ってくる。オオシラビノに止まる(室堂には作業員残る)	野上達也

表2 白山の登山道等で記録されたカラス (1990年~2000年, 筆者記録)

種名	年月日	時刻	場所	個体数	行動等
No.1 ハシブトガラス	1990.10.22		シナノキ避難小屋	1	上空通過
No.2 ハシブトガラス	1990.11.15		中宮道、1,300m	1	鳴き声
No.3 カラス	1991.5.10		釈迦新道	1	ブナ林上空
No.4 ハシブトガラス	1991.6.5		中宮道、1,380m	1	鳴き声
No.5 ハシブトガラス	1992.2.15		中宮北方の尾根	1	鳴き声
No.6 ハシブトガラス	1993.11.30		中宮道、1,290m	1	遠く中ノ川の谷の中から鳴き声(道路工事中)
No.7 ハシブトガラス	1994.5.9		檜新宮	1	少し離れて鳴き声
No.8 ハシブトガラス	1994.5.30	12:25	室堂	2	室堂作業員小屋の西方、雪上で何かを採餌。ハイマツ林に止まる
No.9 カラス	1994.6.23	7:10	加賀禅定道、1,450m	1	遠くライ谷の中から鳴き声
No.10 カラス	1995.6.15	6:38	別当出合	2	飛ぶ
No.11 ハシブトガラス	1995.9.28		長倉山	1	下方遠く丸石谷より鳴き声(堰堤工事中で車や作業員見える)
No.12 ハシブトガラス	1995.10.17		加賀禅定道、960m	1	上空通過
No.13 カラス	1996.7.24	6:10	観光新道、1,600m	1	車道沿いに、別当谷の工事作業現場の方へ飛んでいく
No.14 カラス	1996.7.24	15:20	御前峰	2	2羽で飛ぶ
No.15 ハシブトガラス	1996.8.6	5:32	市ノ瀬	1	
No.16 ハシブトガラス	1996.8.14	9:59	新岩間温泉	1	
No.17 ハシブトガラス	1996.10.9	8:40	南竜ヶ馬場	2	南竜ヶペン工事中
No.18 ハシブトガラス	1997.2.7	14:05	市ノ瀬	2	除雪作業等に、市ノ瀬へ10人入山
No.19 ハシブトガラス	1997.2.9	11:00	エコーライン、2,300m	1	南竜ヶ馬場方向から鳴き声
No.20 ハシブトガラス	1998.6.8		白山スパー林道	2	下流から標高890m、1,500m、三方岩山頂へと上がってくる
No.21 ハシブトガラス	2000.8.21	6:30	別当岨	1	下方、別当谷から鳴き声(作業現場付近)

太字が亜高山帯・高山帯の記録

が表2および図2である。この中で 8, 14, 17, 19 が亜高山帯以上での記録である。1980年代以前には確認記録はないので、年月日が明らかな記録としては1994年5月30日が白山の高山帯での最初の記録となる。なお、当時のカラス情報を、当時の室堂主任で

あった木下道雄氏から聞いたところ、それまでいなかったカラスが、「4, 5年前から5月の室堂に見られるようになった。」とのことであった(1994年5月30日、筆者聞き取り調査)。

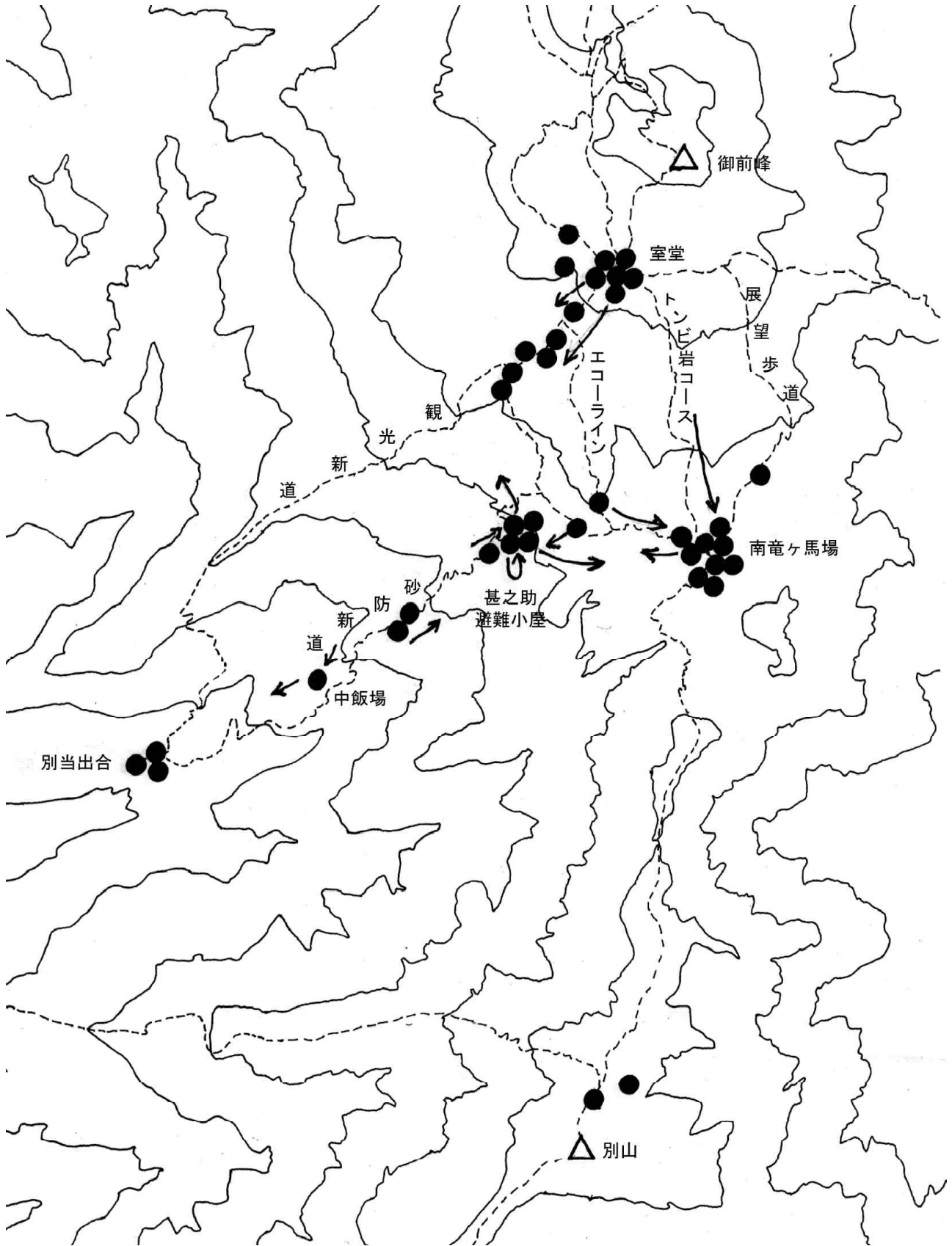


図1 白山の登山道で記録されたカラスの位置 (2001年~2003年)

⑤

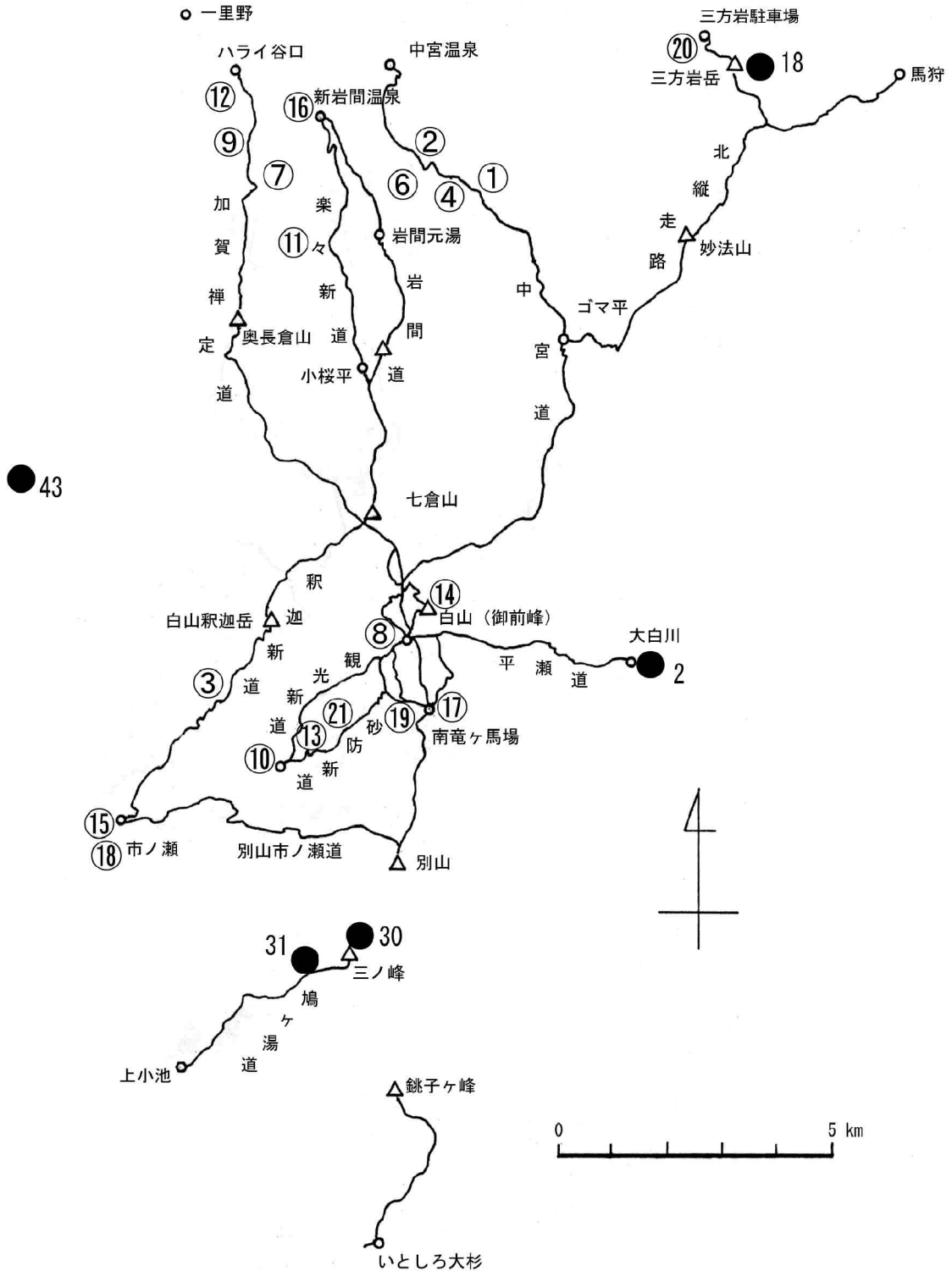


図2 白山の登山道等で記録されたカラスの位置(1990年~2000年)
 ただし、●は2001年~2003年の記録で図1に示せなかった記録
 図中の丸数字は、表2の○と一致する。

考 察

1970年以前および1970年代、1980年代の調査では白山の高山帯でカラスは確認されていないので、前記の木下道雄氏の観察情報が高山帯での最初のものと考えられ、1990年ころから時々見られるようになったようである。高山帯での記録で年月日が明らかな最初である1994年5月30日の記録は、室堂の作業員宿舎近くの雪上で何かをついばみ、ハイマツ林に止まる2羽のハシブトガラスであった。しかしこの前後の1993年～1995年の亜高山帯以上でのカラスの出現は、筆者の調査日数70日の内この1回のみで出現頻度は1.4%とごく少なく、稀な記録と考えられる。ところが2001年～2003年の出現頻度は、筆者の調査27日の内8日で29.6%と高くなっている。1996年から1997年初めにかけては、夏（7月24日）、秋（10月9日）、冬（2月9日）と亜高山帯以上で記録がある。おそらくこのころから、白山の亜高山帯以上でカラスが通年見られるようになったものと考えられる。

1997年～2000年の筆者による高山帯での調査は多くないので、これらの年の状況がはっきりしないが、2001年のカラスの記録数は特に多い。一つにはこの年4羽以上の群れで観察されているものが少なくとも6回あり、目立ちやすかった可能性が高い。これについては、ハシブトガラスの1巣卵数は3～6個なので（中村・中村、1995）、家族群が出現したものと考えることができ、おそらく同一家族だと推定される。一方で1999年～2001年は室堂の改築工事が行われていたときである。室堂では登山者に加え人の動きが多く、天気がよければ屋外で食事を作る登山者が多く見られた。このようなことが、餌を求めるカラスの多くの出現に結びついた可能性が考えられる。室堂の施設が完成した2002年からは観察回数は少なく、大きな群れで見つかっていない。これらのことから、白山の高山帯で見られるハシブトガラスの数は、ごく限られていると推定できる。

次にカラスの観察記録場所（図1）や行動観察（表1）により飛行ルートを推定すると、その一つが別当出合～中飯場～甚之助避難小屋～南竜ヶ馬場～室堂を結ぶコースとなっていると考えられた。ここは白山の中でも登山者の利用が特に多い歩道や施設があることと、また砂防工事などの人の動きが頻繁にあり、それに関連する施設があるところであ

る。またその他では、福井県の登山口である上小池から三ノ峰へ上がってくるもの（表1の30、31）、岐阜県の登山口である大白川から上がってくるものなどが考えられる。石川県の市ノ瀬を含めこれら3か所の登山口は、登山者だけでなく車を利用してのキャンプやハイキングなどに多くの人を訪れる場所である。市ノ瀬にはハシブトガラスもハシボソガラスも見られ、キャンプ場が賑わうときによく出現して、キャンプで出たゴミや、外灯の下の地上に落ちている昆虫類などを食べていたという（三原ゆかり、私信）。

カラスの行動が人間活動との関連が多いことは、表2のいくつかの事例にも表れているが、視界のよい高山では特に登山者や工事関係者の行動を見ながら行動していることが多いと考えられる。

おわりに

白山では、1970年代からゴミの持ち帰り運動がよく行われており、ゴミかごも早くから撤去されてゴミのないきれいな山として知られてきた。そのことがカラスを高山に寄せ付けなかった原因と考えてきたが、近年ハシブトガラスが高山帯まで上がってくるようになった。今のところ高山帯に出現するカラスは、ごく限られた個体や小群であると考えられるので、そこの生態系に与える影響も限られているものと推定できる。しかし今後ともカラスの動向については注意を払っていかなければならないと考える。

文 献

- 羽田健三（1974）山岳地帯の環境破壊による鳥類の分布と生態の変化について - 特にライチョウを中心として - . 鳥類の生活, 築地書館, 1267-1270 .
- 石川県環境部（1989）鳥類・白山国立公園の保護と利用に関する報告書, 58-61 .
- 熊野正雄・木村久吉（1970）白山の鳥類・白山の自然, 231-275 . 日本自然保護協会中部支部白山学術調査団・石川県 .
- 中村登流・中村雅彦（1995）原色日本鳥類生態図鑑<陸鳥編> . 301pp . 保育社 .
- 上馬康生（1982）鳥類・尾添川流域自然環境保全対策調査報告書, 石川県白山自然保護センター, 59-63 .
- 上馬康生（1985）白山チブリ尾根の繁殖期の鳥類・石川県白山自然保護センター研究報告, 12, 31-39 .